

西暦(和暦)
1173年(承安3)
1181年(養和1)
1201年(建仁1)
1205年(元久2)
1207年(承元1)
1211年(建暦1)
1214年(建保2)
1224年(元仁1)
1248年(宝治2)
1256年(建長8)
1258年(正嘉2)
1262年(弘長2)

年齢
1歳
9歳
29歳
33歳
35歳
39歳
42歳
52歳
62歳
63歳
76歳
84歳
86歳
90歳

事柄

誕生。父は日野有範。
 青蓮院で出家、得度。比叡山で20年間修行。
 六角堂に参籠。法然上人と出遇い、専修念仏に帰す。
 法然上人より『選択集』の書写を許され、真影を图画する。
 承元の法難。越後(新潟県)へ流罪となる。
 流罪を許される。その後、関東に赴く。
 上野国佐貫(群馬県)で三部経千部読誦。途中で中止。常陸(茨城県)へ向う。
 『教行信証』の草稿本が完成。
 この頃、京都に帰洛する。
 『浄土和讃』『高僧和讃』を作る。
 息男・善鸞を養絶。
 『正像末和讃』を補訂。
 入滅。



ようこそ 報恩講へ

- ① 本尊 阿弥陀如来
- ② 親鸞聖人 真向御影
- ③ 本願寺歴代聖人(両脇)・蓮如上人御影(中央)
- ④ 御絵伝(親鸞聖人のご生涯の絵巻物を掛け軸にしたもの)四幅
- ⑤ お華東(ひとつずつ手作りされた餅が盛られる)
- ⑥ 瓊瑠(天井から輪灯の上へ吊るす飾り)



真宗大谷派名古屋別院
 〒460-0016
 名古屋市中区橘 2-8-55 tel. (052) 321-9201 fax. (052) 321-3184
 『お東ネット』
<http://www.ohigashi.net/> お東ネット 
 14.10.30.000



報恩講

ほうおんこう



風の音を聞け、海の音を聞け、生きるものたちの声を聞け、
必ず生きて往ける言葉がみつかる 祖父江文宏

私の心に残る大切な言葉。その人逝きて尚、願いの心は生き続け、その声は今も鳴り響き私を動かす。混迷の世に在ってどれほど不安で悩み苦しむ現実であっても、受け止めて生きて往くことができる私に成る、成りたい。そのような世界を願い生きること求めてきた人々の歴史と歩みの中で報恩講は勤められてきました。その「願いの世界」が織り成す様々な光景（出来事）に多くのことを教えられ学び続けてきたのです。

たまたま出遇った家族を紹介します。それは雪の散ら散らす寒い日のことでした。幼稚園から泣きながら帰ってきた小さな人、名前はかおりちゃん。目には大粒の涙が一杯。「どうしたの？」と声をかけるお父さん。「先生が言っていたの。かおりちゃんのところはお寺だからクリスマスないよねって」……。お父さんは言いました。「そうだね、うちはキリスト教じゃないもんね、仏教だもんね。ところでかおり、何か願い事あるの？」「うん」

「じゃあ本堂の阿弥陀さんをお願いしてみたら？」「阿弥陀さん、かおりのお願ひ聞いてくれるの？」「うん、きつと聞いてくれるよ」。

かおりちゃんは涙あふれる目をこすりながら本堂へ向って走って行きました。しばらくして本堂から戻ってきたかおりちゃん、目を丸くして「お父さん、お父さん、阿弥陀さんはどうしていつも立っているの？つかれないのかなあ？いつ寝るの？」「かおり、阿弥陀さん、いつもかおりのことが心配だから、かおりが起きている間はずっと起きているんだよ」

「じゃあいつ寝るの？」「かおりが安心して眠りにいたら阿弥陀さんも安心して眠りにつくんだよ」

「へえ阿弥陀さん、いつもかおりのことを心配してくれているんだね」「そうだよ、いつもだよ」。涙はすでに乾いていました。

「ところでかおり、何をお願い事したの？教えてよ」「あのねえ……」

翌日、たまたま昨日のその場に居合わせたご門徒さんが、なんとサンタさんの格好でお寺にやってきたのです。大きな袋を担いでニコニコしながら「かおりちゃん！メリークリスマス」。かおりちゃんも家族もみんなビックリ！その様子を見ていたお父さん、サンタのご門徒さんに「すまないね、すまないね」と笑顔で頭を深々と下げていました。みんな笑顔になりました。

何げない日々の光景に触れていく時、私たちは日頃の心の偏り、狭さを教えられます。どれほど受け止め難いことであっても目を背けず、耳を閉さずに向い合っていくと不思議にも見えて、聞こえてくる世界があります。人と生まれて生きることの現実（いのちの相）に目覚めていく歩みは悪戦苦闘。しかし、その歩みは、私が私の人生を嫌わず、見捨てないで生きて往く確かな生活の始まりです。

「あなた」に遇えて本当によかった」。終りなき歩みに身をゆだねて、今年も宗祖親鸞聖人の報恩講が勤まります。

